

宮本武之輔関連年譜

元号	西暦	月	年齢	関連記事（『久遠の人・写真集』巻末年表から作成）	学会関連記事
T3	1914	9	22	帝国大学工科大学土木工学科に入学	
		11		「四国巡礼日記」を赤城書店に売り、初めて原稿料を手にする	
T4	1915		23	秋田で初実習	会員として入会（T4.12名簿）
T5	1916		24	満州に実習旅行	
				初めて外部の専門誌「工学」に投稿、掲載される	
T6	1917	1	25	母・セキが直腸ガンで死去	
		2		中路幸子と婚約	
		7		帝国大学を首席卒業	
		8		内務省東京土木出張所利根川第二期改修事務所安食工場に赴任（公費雇）	
T7	1918	3	26	妹・タマヨが結婚	
T8	1919	8	27	内務技師、絨高等官七等任官、東京第一土木出張所 荒川放水路開削事業小名木川閘門の設計施工 中路幸子と結納を行う	
T9	1920	4	28	結婚	
		12		日本工人倶楽部発会、機関紙「工人」発刊	
T10	1921	2	29	船堀工場主任に任命	
		3		長女とし子誕生	
T11	1922		30		
T12	1923	9	31	関東大震災の調査を命じられ、「東京横浜再建意見書」を内務大臣に提出	
		10		欧米出張に出発 長男靖誕生	
T13	1924		32		
T14	1925	3	33	帰国	
				内務省土木局第二技術課配属	
S1	1926	3	34	高等官四等	
		9		日本大学高等工学校二年「鉄筋論」の講義をはじめ	
S2	1927	2	35	次女さと子誕生	土木賞受賞
		7		新潟土木出張所兼務となり、信濃川分水大河津の自在堰復旧工事の設計を命じられる	
		9		このころ芸妓お千代（丸子）と出会う	
		11		信濃川補修事務所主任、信濃川維持大河津工場主任、新潟土木出張所兼土木試験所勤務	
		12		工学博士論文が承認される	
S3	1928	1	36	工学博士となる	
S4	1929	4	37	高等官三等	
				新潟が集中豪雨に見舞われ、信濃川分水大河津可動堰の仮締め切りを切る	
S5	1930	8	38		
		10		二男信誕生	
S6	1931	6	39	信濃川補修工事竣工	
		7		内務省土木局第一技術課勤務	
		9		勲六等瑞宝賞	
				内務省土木関係者整理に対し反対運動	
S7	1932	1	40	武威高等工科学校道路講習科で「コンクリート」を教える	編集委員
				東京高等工学校土木科長	
S8	1933		41	第三次治水計画策定	編集委員
S9	1934		42		関西地方風水害調査委員会幹事
					振興委員会委員、コンクリート調査委員会委員
S10	1935	9	43	水害防止協議委員会となる	常議員、総務部長
S11	1936	5	44	東京帝国大学工学部講師を引き受ける	理事総務部長兼東亜部長、世界動力会議大堰堤国際委員会日本国内委員会幹事
S12	1937	6	45	六省技術官懇談会誕生	
		9		東京帝国大学工学部教授となる	
S13	1938	2	46	対支技術連盟結成	
		秋		産業技術連盟発足（常任幹事長）	
		12		興亜院技術部長就任	
S14	1939	12	47	宮田兵吉重体の知らせを受け、看病のために興居島へ	
S15	1940	1	48	このころ、従4位、勲四等。	
				日本技術協会理事、東亜研究所調査参与、日本学術振興会理事兼第十一常置委員も務める	
				宮田兵吉死去	
		8		全科技連結成、理事	
S16	1941	1	49	赤痢菌が発見され、入院	
		3		異父兄・石太郎死去	
		4		第七代企画院次長就任	
				12.15 ラジオ演説「国民に告ぐ」全国放送、その翌日から体調をくずす	
				12.26 肺炎のため逝去	12.26逝去